

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000258		
法人名	社会福祉法人 蒼隆会		
事業所名	グループホーム すばる		
所在地	奈良県香芝市鎌田157-1		
自己評価作成日	平成25年4月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちグループホームは、同敷地内に特別養護老人ホームやデイサービス、居宅支援事業サービス等を併設しており、法人内の行事や歩行訓練などで職員やご利用者と交流しています。食事は、週2回だけですが、建物南側にある、畑で収穫した野菜を用いて献立を立てたり、近くのスーパーにご利用者とともに買い物へ出掛けています。スーパーでは、ご利用者自身に食材を選んで頂いたり、入所されるまで毎日のようにされていたであろう、家事作業を職員とともにを行っています。普段の生活に決まりごとなどはなく、毎月のように外出したり、天気がよければドライブに出掛けたり、ゆっくりではあります。が、ご利用者の「家」と思っていたいただけるような、お手伝いを心掛けています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りには田んぼも残っている静かな住宅地の中に建っている平屋のグループホームで、前面はボランティア手作りの花壇が広がり、南側には利用者や職員の野菜畑もある。各居室の掃き出し窓からは直接庭に出ることができ開放的でゆったりとしている。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援センターなどが併設されており、利用者同士の交流や地域との関わりも密接に行なわれている。職員は利用者の人格を尊重し、思いを大切にしたいきめ細やかな支援を実践している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成25年5月16日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の共有は出来てきているように感じますが、地域密着型サービスをふまえた事業所内理念は、まだ作成していません。	「人格を尊重し、利用者の立場に立って」と言う法人理念を、解りやすく「されて嫌なことはしない、言われて嫌な事は言わない」と職員に伝えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、近隣のスーパーや外食に出掛けたり、法人主催の夏祭りなどでの交流になります。	土地柄もあり自治会には加入できていないが、毎月併設の特養でのボランティアによる喫茶店にお茶を飲みに行ったり、近くの神社にお参りに行ったりしている。法人主催の夏祭りには住民を招き、自治会役員も来賓として迎えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への貢献はまだ出来ていません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開いてはいますが、毎月のように開催出来ておらず、開催した折には、職員会議で報告をするようにしています。	市職員、民生児童委員、第三者委員、家族代表などが参加して、今年度2回の運営推進会議が開催された。業務報告や事故報告、行事説明などされている。	運営推進会議で外部評価結果をとりあげ話し合い、サービスの質の向上につなげる取組むと、会議の結果をすべての家族に周知する取組むが望まれる。自治会の参加が得られていないので会議の意義を説明し、参加の要請を継続していくことが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方が来られるので、その際に報告、連絡、相談をしています。	運営推進会議に出席してもらい、現状を話して助言を得ている。法人全体で市と連携をとっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までも、これからも身体拘束は行いません。	開設当初は身体拘束について研修をされていたが現在は行なわれていない。日中玄関や居室からベランダへ出る鍵はかけていない。ベッド柵もしていない。	職員全員で「身体拘束とはなにか」を具体的な事例をあげて話し合い、常に意識し業務にあたる取組むが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われていないか、虐待と思われる言葉かけはないか、注意を払うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業について、管理者自身が知識不足である為、職員に対して、話すことが出来ていません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、説明をしながら書類を読み進めるように心掛けています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、出席されたご家族様より意見等を伺うことは出来ますが、出席される方が少なく、またいつも同じご家族様がお越しになるので、別の機会を設けなければなりません。	家族来訪時には声かけをし意見を聴くようにしている。家族が言いにくい用件は場所を考えて聴くようにしている。家事作業を要望されケアプランに組入れているが、女性利用者ばかりなので家事の振り分けに配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際には、職員からの意見を伺うように心掛けています。	職員から管理者に意見を言いやすい環境ができています。管理者は職員の意見を大切に、重要と思われる事柄は職員会議で話し合い改善につなげている。職員の提案で浴槽に木製の台を置き、足を伸ばして入浴できるように改善した例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務態度や勤務状況について把握するように努めていますが、それが給与水準や労働時間の向上、反映は出来ていません。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修や勉強会があれば、参加して頂きたいので、勤務の調整はします。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ実施できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者やご家族様と話しやすい雰囲気、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と積極的に話をするように心掛けています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至るまでにご利用者やご家族様に面談を繰り返したり、話し合いを行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は、一緒に支えあって生活する関係だと伝えていきます。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも何気ない会話はもちろんのこと、職員とご家族様が協力して、ご利用者を支えていこうと話合っています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援も行っていますが、最近は無くなりつつあります。	地域からの利用者が6名おられ家族、兄弟、親戚、友人、元のご近所の方などが来訪されている。出かけるのが困難な方が増え、それぞれが畑作りや好きな事ができるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係をよく観察し、関わりを持つように努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご利用者の面会に出掛けたり、ご家族様に連絡をするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい、ご利用者本位になるように心がけています。	思いや希望を話せる方もあるが家族に聞くこともある。2ヶ月に1度のグループホーム会議で話し合っている。個別カンファレンスも大切と考えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前はもちろん、入所後もご家族様より情報の提供をお願いしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者をよく観察するように、常々職員には伝えていきます。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不十分ではあるが、作成しています。	利用前のケアマネージャの情報やお試し利用、利用前面談にてアセスメントシートを作成し、担当者の意見を聞きながら管理者が介護計画書を作成している。家族には直接、電話、郵送にて説明している。6ヶ月に1度のモニタリング結果を評価し、次につなげている。	介護計画作成の段階から家族を含めた担当者会議を開催されることが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルや申し送りノートで職員間の情報共有を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族様からの希望を取り入れられるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握、活用できていません。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続することを基本としているが、ご希望があれば、法人の嘱託医に変更することも可能です。	2週間に1度往診があり、6ヶ月ごとの血液検査が実施されている。通院時医師への連絡、医師からの指示を記入するノートがあり、受診結果の報告漏れがないようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐しておらず、急変時には併設する特養の看護師に相談、指示を仰いでいます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院の相談員との面談・情報提供をお願いしており、早期退院を目指しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ実施できていません。	重度化の指針は決めていない。現在のところ重度化した場合には、家族了承のもと、併設の特養に移動していただいている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前、消防署より救急救命士が来られて、訓練して頂きましたが、間が開いているため、再度訓練をお願いしたいと思います。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていません。	年2回利用者も参加して避難訓練を行なっている。スプリンクラーや緊急通報装置を完備している。地域交流センターは地域の避難場所になっている。	年2回の避難訓練のなかに利用者も参加して夜間を想定した訓練を実施されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議の際に、注意喚起しています。	個々人のプライバシーを尊重したケアを行っている。入室時には必ず声かけ、ノックをしている。排泄時の声かけも配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者にとって、ご本人らしさを表現できるように、職員は常に柔軟な対応をするように、注意しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせて援助できるように支援するように心掛けています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者は、自分の好みの衣類を選び、きておられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員が、一緒に行っています。	週2回利用者の希望をメニューに取り入れて調理している。買い物にも同行していただいている。イベントや誕生日にはケーキ作りやお菓子作りをしている。月に1,2回外食も楽しんでいただいている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは問題がないかと思います。またそれぞれの水分摂取量を把握してするよう、努めています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。必要に応じて、義歯洗浄液を用いた、洗浄も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感覚はおおむね把握しており、例えリハビリパンツを使用されていても失敗されないように、声掛けを行うように心掛けています。	排泄は自立された方が多く、布パンツ4名、リハビリパンツ4名で対応されている。職員は排泄パターンに合わせて早めのトイレ誘導を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、水分を多めに促したり、乳酸菌を引用したり、食事で工夫しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日中沸かしており、順番に入浴して頂いています。職員体制が不十分な時や外出時は入浴して頂けないときもあります。	ゆったりとした浴槽と広い脱衣場で毎日入浴できるように準備している。料理日と外出日は午後からとしている。一番風呂は順番を決め、入浴剤、菖蒲、ばら、木酢湯など楽しむ工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれ違うが、就寝前はゆったりされてから休まれています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理、配薬、服薬に至るまで、職員が行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人で過ごされる時間も集団で過ごす時間も大切に、ご利用者の役割もその人に合ったお願いするようにしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室内に閉じこもらず、天気の良い日には外出するように工夫しています。	外食や買い物、花見、観劇、初詣など外出の機会を設けているが、回数は減ってきている。新聞取りや敷地内を一周したり、地域交流スペースに遊びに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は事務所でやっているが、外出時には財布よりお金を出して頂いたり、持っていただく機会を作ろうと心掛けています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、電話でご家族様と話すこともされています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の希望や季節感を感じられるような、壁面などを作っています。	リビング兼食堂は中庭や天窓から日が入り、広く開放的で多目的に使用できる。ソファや家具は居心地よく配置され、ペットの写真や手芸品が飾られている。飼っているうさぎは安らぎを与えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やソファなど落ち着く場所で過ごして頂けます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋や身の回りのものは、以前よりお使いになられていたものをご持参いただくよう、お願いしています。	居室には洗面所、トイレ、クローゼットが設置され、掃きだし窓から庭に出ることができ開放的である。ベッドや布団は利用者が持ち込み、その他使い慣れた物や家族の写真に囲まれて、生活を楽しんでおられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者「気づき」は各個人ファイルや申し送りノートなどで周知するように、建物内部は使いやすいように工夫しています。		